



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部



若者たちに希望のメッセージ

世界青年の日を前にベネディクト16世

第二十四回「世界青年の日」(四月五日)を前に、教皇ベネディクト十六世は世界中の若者と若者を見守る大人たちに向けてメッセージ「わたしは生ける神に希望を置いています」(一テモテ4・10)を発表した。教区報ではこの教皇の「希望」を明確にし宣教に乗り出すようというメッセージを要約し紹介する。

親愛なる友人の皆さん

私たちは今、二〇一一年にマドリッドで開催される世界大会に向けて歩んでいます。この世界大会のテーマは使徒パウロの「キリストに根を下ろして造り上げられ、信仰をしっかりと守りなさい」(コロサイ2・7参照)。大会を目指し共に歩んで行きましょう。

希望としての青年時代

シドニー大会の閉会のミサで私は「自分を聖霊によつて形づくって頂きなさい。そして、全人類にとって未来の希望を築くことのできる神の愛の使者となりなさい」と勧めました。希望への問いは、私たちの人間生活とキリスト者としての使命の中心となるものです。そしてその希望はありきたりの希望ではなく、堅固で信頼できる希望です。青年時代は特別な希望の

偉大な希望を求めて

個人の能力や物質的な富は、人間の魂が絶えず求めている希望の十分な保証にはなりません。この偉大な希望は神以外にありえないのです。だから神を忘却することは、明らかな方向づけの喪失で、これが現代社会の特徴をなしています。

この希望の危機は若者に一層大きな影響を及ぼします。確信と価値観と堅

固な基準を欠いた社会的・文化的状況の中で、若者は、自分の力ではどうすることもできないように思われる困難に直面するからです。そのような状況下で希望を失った人はたくさんいます。しかしそれは個人的な未熟さのせいです。これらの若者にどのようにあの希望を語つたらよいでしょう。すべきことは新しい福音宣教です。それは若者が神のみ顔を再発見すること

キリストへの偉大な希望

パウロにとって希望は単なる理想や感情ではありません。それはむしろ神の子であるイエス・キリストという生き方そのものです。キリストこそがまことの希望であり、私たちの現在であり未来です。それならば何を恐れることがありませんか。イエスはかつて青年パウロと出会つたように、皆さん一人ひとりとも出会おう

新風

イエスは受難の前に、弟子たちに向かつて「あなたがたはわたしを何者だということか」と尋ねたところ、ペトロが「あなたは、メシアです」と答えました(マルコ8章29節参照)。この答えは正解でしたが、その真の意味は理解していませんでした。ペトロにとってメシアとは、一般の人々の共通認識であった油注がれた者がイスラエルの王、すなわちこの世の王のことを指していたからです。

あなたはメシアです

ペトロが、真にイエスのいうメシアの意味を悟つたのは復活したイエスに出会ってからでした。受

難のときイエスを知らないと思ひ、見捨てた。ペトロにとつて復活したイエスが、過去の自分の弱さを責めることなく今までどおり接してくれたことに彼はゆるしを体験しました。その後、パウロを含め使徒たちはイエスの十字架による死について、そこに隠されている意味を旧約聖書の中に探し始めました。具体的には十字架上で発したイエスの最後の言葉です。マタイとマルコは「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになつたのですか」、ルカは「父よ、私の霊を御手にゆだねます」、ヨハネは「渇く」となっています。これらのことばはそれぞれ、マタイとマルコは詩篇22の1、ルカは詩篇31の6、そして、ヨハネは詩篇22の16の引用になっています。使徒たちのこれらの作業によつてイエスの死はイスラエルの二〇〇〇年の歴史に根付くこと、さらにその意味はイザヤ書53章に見られる「主の僕の苦難と死」の内容以外には理解不可能であるという確信を持ったのだといえます。 私たちも使徒たちの確信に至りたいものです。そのためにイザヤ53章を精読しましょう。(H・N)

と望んでいます。主の出会いの仕方は次のようです。主と出会いたいという望みは、すでに主の恵みによりもたらされたもの。祈りの中で信仰を表すとき、私たちは暗闇の中でも主と出会います。粘り強い祈りが心を開いて主を受け入れさせてくれます。これはアウグスチヌスが言うように「希望を鍛えること」にもつながります。皆さんの生活の中で祈りに時間を割いて下さい。

私たちは洗礼によってキリスト者の家族に加わり、ゆるしの秘跡によって絶えず新たにされます。堅信を通じて聖霊に強められ、キリストのまことの友また証人として生きるようになりま。また叙階と結婚の秘跡によつて、信者は教会と世界の中で使徒としての務めを果たすようになり、最後の病者の塗油で神の慰めを経験することを可能にするのです。

意を新たにして下さい。証人として歩みを進める中でも様々な困難に出会うことがあるでしょう。そのようなときは、堅固な希望を持つて十字架のものと立ち続けたマリアに倣うと共にその取り次ぎを願つて下さい。私は日々祈りの中で皆様のことを心に留めることを約束し、心から祝福を送ります。 二〇〇九年二月二十二日 バチカンにて (文責・広報部)

教区人事

- ▼美島春雄神父(ザビエル教会主任)は志布志教会主任及びカトリック志布志幼稚園園長
- ▼中野裕明神父(教区本部)はザビエル教会主任及び教区本部事務局長
- ▼ジュオン・クオク・ティ

- エン神父は、ザビエル教会助任のままレジオ・マリエ鹿児島コミチュム指導司祭主任
- ▼東 研神父(大根占教会主任)は始良教会主任
- ▼松田清四朗神父(始良教会)は教区本部付協力司祭
- ▼松永正男神父(コンベンツアル会・新任)は大笠利教会主任
- ▼神 修神父(コンベンツアル会・新任)は古仁屋教会主任
- ▼平 孝之神父(コンベンツアル会・新任)は古田町教会主任
- ▼柳本繁春神父(コンベンツアル会・古仁屋教会主任)は古田町教会助任
- ▼グエン・ホグ・タム神父(新任)は鹿屋教会助任
- ▼オローフォ・ベルナルディーノ神父(教区本部付協力司祭)は教区本部事務局長補佐及び外国人司牧
- ▼H・ハヌス神父(レデンブートル会・母間教会協力司祭)は和泊教会主任
- ▼T・メニツヒ神父(レデンブートル会・和泊教会主任)は母間教会協力司祭

YET

他の社員が お茶を飲んで飲 談しているときに、薄暗い倉庫の中で一人黙々とシールを貼り続ける女性がいた。何となく気になつて「大変だね」と声をかけると「単純作業好き」と楽しそう。はて変わった人があるものかと思つた▼今でも大して変わらないが以前はもつとひどかった。仕事が忙しくなると、予定しなかつた仕事が舞い込んでくると、すぐに不満を漏らしていた。「なぜこんな仕事を」。「どうしてほくだけ」：そして拗ねた▼そんな姿を見かねた上司の言葉は強烈。「世の中には誰かがやらないといけないことがある。それをあなたがしているだけ。他に何かある？あなたができないなら私に言いなさい。私が代わる」今までに受けたことのない強烈な叱責(メッセージ)だった。「私は信者」と装いながら「天に宝を積む」気がないそんな自分に気づかされた▼テレビ番組で映し出されたのはあるすぐ腕の小児外科医の姿。「世の完成のために忙しく働いている神さまがやり残したことがある。私はその手伝いをしている」と淡々と語り、不眠不休の仕事にも不平を漏らさないでいた。自分を恥づかしく思った。とうとうそんな仕事もそんな境地にも到れはしないが、あの倉庫で働いていた女性を見初め妻にした自分だ。せめて頼まれ事を「イヤだ」と宣言したとしても果たせるよう努めたいと思つている。

- 1 ※参加者を温かく迎える。
- ※主をお招きするための祈り、典札聖歌「キリストのようによろこぶ」
- ※リーダーによる説明 (15分)、今日の講座の流れを説明

- 1) 分かち合いのルールについて
- ①自分自身を見つめ実際の体験を素直に話す。
- ②一人で、話したいだけ話すのでなく聴くことを大切に。
- ③テーマからそれないよう。
- ④悩み相談にならないように。
- ⑤分かち合った内容は他言しない。
- ⑥人が分かち合ったことを評価・批評・批判しない。
- ⑦キリストが語ってくださることを感じ取るように。

2) 聖書を用意する。ローソク、十字架、テーブルを中心に円形に着席。

日本の社会には世界に見られるような戦争・民族対立・迫害・独裁政治が表面的にはありません。しかし、穏やかな社会の背後にも似たような風景が広がっているように思います。ある程度、穏やかに見えても人の心の中では多種多様な感情が動いています。他人の言ったこと、したことが自分の価値観と異なる時、

怒りや腹立たしき、驚きや失望を味わいます。それは心の傷となって、不平や不満が心の中にくすぶり始めます。犯罪にはならないとしても、時として、社会的ルールの許容範囲内で相手にやんわりと不快感を表したり、冷たい態度をとったり、関わりを避けるほどの対立を引き起こしたりします。結果としてわたし達は様々に揺れ動く心を『仮面』で押し隠し、犯罪を犯さない範囲内で自分を傷つけない他者に善ではなく、悪を行ってしまうことがよくあります。

このような冷め切った人間関係の中では荒々しい感情の高まりを自ら抑圧しながら何事もなかったかのように生活しています。あるいは自分の心の動きにさえ気を留めることなく、時がそれを忘れさせてくれることが多いのではないのでしょうか？ 自らの心の動きに鈍感になってしまつと、他者との関わりは傷つけない程度に、表面的なものになり、深いところで他者と関わる心の触れ合いや関わる喜びさえもなくなってしまう。現代人の孤独は自身自身の表面的な姿勢から出てくる産物なのかも知れません。

このような社会にあってキリスト者であり続けるために、キリストご自身の「みことば」に耳を傾け、実行する必要があります。

マタイ福音書五章43節「48節を読んでみましょう。(二回ゆっくりと読まれます。)

「あなた方も聞いておられ、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられています。しかし、わたしは言うておくと、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」あなたがたの天の父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせて下さるからである。*

め、キリストご自身の「みことば」に耳を傾け、実行する必要があります。

「あなた方も聞いておられ、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられています。しかし、わたしは言うておくと、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」あなたがたの天の父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせて下さるからである。*

新しい問題解決の道

北薩地区宣教奉仕者 (信徒使徒職) 養成講座

出水教会主任司祭 大松 正弘

情の高まりを自ら抑圧しながら何事もなかったかのように生活しています。あるいは自分の心の動きにさえ気を留めることなく、時がそれを忘れさせてくれることが多いのではないのでしょうか？ 自らの心の動きに鈍感になってしまつと、他者との関わりは傷つけない程度に、表面的なものになり、深いところで他者と関わる心の触れ合いや関わる喜びさえもなくなってしまう。現代人の孤独は自身自身の表面的な姿勢から出てくる産物なのかも知れません。

このような社会にあってキリスト者であり続けるために、キリストご自身の「みことば」に耳を傾け、実行する必要があります。

マタイ福音書五章43節「48節を読んでみましょう。(二回ゆっくりと読まれます。)

「あなた方も聞いておられ、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられています。しかし、わたしは言うておくと、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」あなたがたの天の父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせて下さるからである。*

め、キリストご自身の「みことば」に耳を傾け、実行する必要があります。

「あなた方も聞いておられ、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられています。しかし、わたしは言うておくと、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」あなたがたの天の父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせて下さるからである。*

「あなた方も聞いておられ、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられています。しかし、わたしは言うておくと、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」あなたがたの天の父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせて下さるからである。*

分を愛してくる人を愛したところで、あなた方にどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるのか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者になりなさい。」

問いかけ (まず5分間それぞれ自分を振り返り、必要に応じてメモしてください)

1 あなたの周囲での争いについてどんな争いがありますか？ あなたはどのように対処してきましたか？ 対処していますか？

2 あなたが巻き込まれた具体的な状況・争いを思い浮かべ、キリストが教えた「みことば」に従ったことがありますか？ 従ったとしたらその結果はどんな風になりましたか？

3 あなたを傷つけた人へ赦せた体験、反対に赦せなかった体験がありますか？ (具体的に話せないとき無理がないようにして下さい。)

※小グループに分かれての分かち合い。自分の生き方と照らし合わせて (各問いかけについて10分、全体では30〜40分)

次回はお復活のお祝いですので休みます。次は出水教会にて五月十七日(日)午後二時より行います。



出会えば楽し

司教執務室 便り



今日まで、あなたは「知恵のことば」を通して、わたしを導いて下さい。わたしを導いて下さい。わたしは歩む人生の旅路には多くの困難があります。自分本位の姿勢は他者を愛さなくなってしまう。あなたの言葉を生きないで、自分の欲求に従って歩んだなら、周りの人々にどれ程多くの苦しみを与えたことでしょうか。

わたしの「キリスト者としての旅路」があなたに祝福されたものとなりますように、わたしの「みことば」に従ったものでありますように。

玉名の真命山のフランコ神父さんから諸宗教対話研修会の案内を頂いたのは昨年のいつ頃だったろうか。前回、卒業式や個人の用事を優先させたのはたぶん気が乗りしなかったからだ。今回は違っていた。近いうち出版予定の「諸宗教対話の手引き」(仮称)の原稿が届き、三月末までにコメントを寄せるようにとのことだった。25頁を読みきったところで、まるで憑物(憑物)落ちたように「是非行ってみよう」との思いがこみ上げてきたのだ。その気にさせたのは「わたしたちは世界の平和、人類の救いのために他の宗教の信者と協力し、ともに働くために何が出来るでしょうか」(同上1〜2頁)という問いかけの言葉だった。

ともあれ、午前中は神道や仏教、それに対話に関する公会議の教への学び。特に後者については神学校で学んだことを更に深めて頂きとても有意義なものだった。午後は、熊本市内まで出かけて神社仏閣訪問。神主さんやお坊さんとの対話は興味深く、意外と楽しいものだった。仏教の複雑な教理に反して現場の坊さんたちの話はきわめて単純。諸宗教対話の研修とは次のようなやり取りだった。お釈迦さんは宇宙の絶対真理を悟った。絶対真理とは何ですか。阿弥陀の本願です。本願とは？ 皆が救われるというということ。これを信じて南無阿弥陀仏を唱えさえすれば救われる。救いは向こうから頂くもの。これは浄土真宗。禅宗のお坊さんになると救いはあくまで自分で手にするもの。「信じていることと行いが一緒でなければ救われない。自分あるのみ。」お釈迦様はどんな顔で聞かれたものか。印象に残ったのは立正佼成会。訪問者を合掌して迎えてくれたからだ。その人ではなくその人に宿る仏性に対するものだということ。パウロが言う「あなたがたは聖霊の神殿」(1コリント6・19)。信者も学びたい。対話実習のすべてを紹介することはできないが、こうした対話なら楽しい。数週間たった今も「私たちは神に造られた」と聞いたときあの坊さんの戸惑った顔が思い出されて思わず笑ってしまう。

+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Tatlong Mahalagang Dimensyon ng Pananampalataya"

Ang Pananampalatayang Kristiyano, kung gayon, ay su masaklaw sa bawat bahagi natin: sa ating isipan (paniniwala), sa ating saloobin (pagkilos) at ating puso (pagtitiwala). Isa-isahin nating saglit na suriin ang bawat aspeto nito.

PANINIWALA-
Kalakip ng pananampalataya ang ating mga pangunahing paninindigan bilang mga Kristiyano. "Kung ipaha hayag ng iyong mga labi na si Jesus ay Panginoon at mananalig ka nang buong-puso na siya'y muling binuhay ng Diyos; maliligat ka" (Rm. 10:9). Nilagom ni Juan ang kanyang Ebanghelyo nang ganito: "Ang mga natala rito'y sinulat upang sumampalataya kayong si Jesus ang Mesiyas, ang Anak ng Diyos, at sa gayo'y magkaroon kayo ng buhay sa pamamagitan niya". (Jn. 20:31)

PAGKILOS-
Ngunit bukod sa paniniwala, pagkilos din ang pananampalataya. Sinulat ni Santiago: "Mga kapatid, ano ang ma papala ng isang tao kung sasabihin man niyang siya'y may pananampalataya, ngunit hindi naman niya pinatu tunayan sa gawa?" "Si Kristo mismo ang nagturo: "Hindi lahat ng tumatawag sa akin, 'Panginoon, Panginoon', ay papasok sa kaharian ng langit, kundi yaon lamang sumusunod sa kalooban ng aking Amang nasa langit". Samakatuwid, ang pananampalataya ay isang pagtatataga na sumunod sa kalooban ng Diyos para sa atin. Nakikita natin ang halimbawa nito kay Mariang nagsabi: "Ako'y alipin ng Panginoon. Mangyari sa akin ang iyong sinabi".

PAGTITIWALA/PAGSAMBA-
Bukod sa paniniwala at pagkilos, ang pananampalataya rin ay nagtitiwala ng sarili sa kamay ng Diyos. Sa pagsunod sa utos ng Diyos, iniwan ni Abraham, ang ating ama sa pananampalataya, ang lahat upang maglakbay patungo sa isang lupaing banyaga. Sa kabila ng lahat ng mga balakid, nagtiwala si Moises kay Yahweh sa pagpapalaya sa mga Judio mula sa kanilang pagka-alipin sa Ehipto. Sa Bagong Tipan, gumawa lamang si Jesus ng mga palatandaan at pagpapagaling sa mga taong nagtiwala sa kanya. Nangako siya sa ama ng batang sinaniban ng demonyo: "Mapangyayari ang lahat sa may pananalig". (Mc. 9:23) Kaya mga kabayan ang pananampalataya ay isang pakikipagtagpo sa Panginoon na pinangagalingan ng ating buhay.

洗礼と堅信で喜びいっぱい

三十四人が受堅した大熊小教区

二月二十二日(日)午前
十時から大熊教会で郡山司
教司式による洗礼式と堅信
式がありました。大人の洗
礼五人は数年ぶり、受堅者
は三十四人(内五人は当日
の受堅者)で、こちらは三
年ぶりのお恵みとなりまし



喜びの皆で記念撮影

た。
大熊小教区には昨年四月
の異動でP・アン神父様べ
トナム出身)が赴任しまし
た。神父は二〇〇六年四月
二十二日、マニラで叙階さ
れたばかり。日本での生
活もまだ二年程で日本語
習得に励む毎
日です。そこで
助手として大島
に縁のある久保
裕己大神学生も
一緒に来ました。
司教様の配慮
だったのでしょ
う。

大熊小教区で
はここ三年間堅
信の秘跡はなく、
調べてみますと
対象者が三十人
ほどいることが
分かりました。

そこで九月下旬から久保神
学生が要理を担当し、小学
校四、六年生の組、中・高
生の組、大人の組に分けて
勉強会を始めました。久保
神学生は子どもたちにも好
かれ、約六か月の勉強を担
当し、今回のお恵みへと到
りました。

二十二日のミサは二時間
ほどかかり、その後は信徒
会館へ会場を移し昼食のひ
と時が持たれました。食後
には余興もあり、子どもた
ちの楽器演奏や婦人会の踊
り、そして皆で八月踊りを
楽しみました。そして最後
は司教がそのモットー「そ
れでも喜び、希望、感謝」
にまつわる感動的な話をし
て下さり、この日の洗礼と
堅信の恵みの会はお開きと
なりました。
(通信員/平 三國)

49年の歴史に幕 川内純心高校

三月一日(日)川内純
心女子高等学校(宇田美智
枝校長)で、最後の卒業
式と閉校式があり、同校の
四十九年の歴史に幕が下ろ
された。
一九六〇年に川内市の要
請にこたえて鹿兒島純心女
子高等学校川内分校として

開校した同校は、一九六二
年に川内純心女子高等学校
として独立、その後は教育
施設を充実させ英語科を新
設するなど、時代のニーズ
にこたえる努力を重ねてき
たが、その役目を終えたと
判断し閉校へと到った。今
後、同校の立つ敷地には保
育園と子育て支援センター
が整備され、新しい役目を
果たしていくことになるこ
う。

私のそれでも体験

百周年を通して神の偉大さに目覚める

赤尾木教会 栄 ハル

私は幼児洗礼で、日曜日のミサ
にあずかるのは習慣となり、聖体
拝領も告解も当然のことと受け止
め、結婚、子育てに追われながら、
時には神さまに感謝し、時には自
己中心の考えに悩みながら平凡に
過ごしてきた。

同時に宇宙の創造主に、またみ言
葉を通してイエス・キリストのま
ことの愛の深さ、広さに魅了され
るようになった。そんな時に、瀬
留教会献堂百周年の恵みにあずか
ることになった。

百周年の準備を主任司祭・末吉
神父さまと一緒にかわらせてい
ただきながら、一つひとつの出来
事に神様が導いて下さる不思議な
わざを目の当たりに体験した。例
えば式典当日のお祝いの一品に真
心のこもった島の「吸い物」を
準備しようとの意見に難問を感じ
た。まずは出席人数が七百数十人
であること。作る場所、入れ物
の確保のこと、中味の件、温かい
ものを出すための運ぶ人…などな
ど。色々な意見の中で、これがみ
旨であればと、婦人会を中心に皆
で祈りのうちに準備を進めた。時
が近づくにつれ、皆の頭の中に名
案が次々に浮かび、協力体制が整
い、実施の段階で何の心配もする
ことなく大成功に終わった。

感じ感激の涙が頬を伝わった。こ
の地にも種々の出来事を通して私
たちの願いを叶らせて下さってい
ることに気づき、何よりも大切な
ことは、信頼して真剣に祈りなが
ら願い、感謝することだというこ
とが心に滲みだした。この気持ちでミ
サにあずかり、ご聖体をいただく
いていると心奥底から安らぎを感
じ、以前とは違う自分に気づいて
いる。
この体験をこれからの信仰生活
に浸透させていけたらと思う。百
周年に感謝したい。



全国大会への参加者と支援を募る パッションの会

開かれるこの全国大会は、

カトリック
鹿兒島障害者
自立を考える
会「パッショ
ンの会」(川越
清春会長)では
今年の新潟
で開催される
「第十回日本カ
トリック障害
者連絡協議会」
(八月一日〜二
日)への参加者
を募っている。
三年に一度

障害を持つ人、そしてそれ
を支える家族や介添えの人
たちが参加するもので、講
演や分かち合いで日頃の
悩みや喜びを分かち合うも
の。パッションの会では鹿
兒島から一人でも多くの人
に参加して欲しいとし、そ
れらの人たちの交通費等を
助ける資金援助を求めている。
大会への参加・支援
に関する問合せ申込先は次
の通り。川越清春会長
〇九九四―二二一〇四八四・
徳永善博事務局長 〇九九
〇―三六六九―〇四二三

久保裕己さん 大神学校へ

昨年四月から一年間、大
熊教会で司牧実習をしてい
た久保裕己さん(川内教会
出身)は四月から日本カト



リック神学院に入学するこ
とになり、三月二十六日
(木)東京へ向かった。日
本カトリック神学院はこの
四月からこれまで東京と福
岡にあった大神学校が統一
され再出発するものので、
久保さんはその一期生とし
て、初年度養成コースに入
ることになる。久保さんは
すでに上智大学の神学部を
卒業しており、大熊小教区
での司牧実習で教会学校や
葬儀などで活躍し小教区の
信者に慕われ主任司祭を大
いに助けた。

短信

貴島文弥神学生

教区大神学生貴島文弥さ
んは三月八日(日)聖心教
会でのミサの中で朗読奉仕
者に選任された。

スピリチュアル研修会

三月七日(土)と八日(日)
教区本部で心理的な痛みと
スピリチュアルな痛みにつ
いて学ぶ研修会と、ケア
ワーカーを目指す人のため
の導入講義があった。

4月

今月の暦

- 2日(木) 中野裕明神父叙階記念日(一九七八年)
- 3日(金) 日本カトリック神学院開校式
- 5日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 7日(火) 成相明人神父霊名(ラサール)
- 9日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
- 10日(金) 聖金曜日(大斎・小斎)
- 11日(土) 聖土曜日
- ▼フリジェル神父叙階記念日(一九五五年)
- 12日(日) 復活の主日
- 14日(火) 奄美例会
- 18日(土) 松森孝郎神父叙階記念日(一九七一年)
- 19日(日) 復活節第二主日(神のいつくしみの主日)
- 20日(月) 司祭評議会・教区本部・10時
- ▼教区司祭会・教区本部・16時
- ▼レデンプートル会例会
- 21日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 22日(水) アン神父叙階記念日(二〇〇六年)
- 25日(土) 聖マルコ福音記者
- ▼マイエル神父命日(一九七八年)
- 26日(日) 復活節第三主日
- ▼典礼研修会・13時30分・教区本部
- 28日(火) ハンマ神父叙階記念日(一九六三年)
- ▼アッシュヤー神父叙階記念日(一九六四年)
- 29日(水) 橋口啓悟神父叙階記念日(一九九六年)

桃菌助祭と行く

津和野乙女峠まつりと長崎巡礼の旅3日間

旅費：36,500円(20人以上・保険代含)
 旅程：5月2日(土)～4日(月)

2日(土) 出発(10時半)～津和野教会での前夜祭に参加(19時)

3日(日) 聖母行列～野外ミサ～長崎へ出発(13時)～長崎散策(18時)

4日(月) 長崎巡礼～鹿兒島へ(14時)～鹿兒島市内到着(20時)

申込問合せ 紫原教会ヨセフ会 ☎099(254)7923
 巡礼担当・徳永 ☎099(206)7221
 携帯 09036690423

信仰と漢字(五)

純心学園 岡 俊郎

生きる意味を本気で自分に問い始める四旬節第二主日に、ミサで頂きました。「これはわたしの愛する子。これに聞け」(マルコ九・7)。神とお呼び申し上げる永遠の命である方の「愛する」とは何か、と自分に聞かれました。「信仰生活において、神の愛する子としての生き様を味わっているのか」「ハイ」と返事ができると同時に「本当か」と自問自答もしていました。アルファコース(信仰生活についての勉強会・祈り・分かち合う集い)に参加したことを思い出しています。分かち合いの中で二、三人の方から愛という言葉が出てきました。

愛という言葉は、通い婿の盛んであった時代にできた字だから「忍び歩き」の意味だと思っていました。情的愛、特に男女間の愛が体

で生きる人間にとって大事な生き様なのだと考えてました。字源辞典に、愛は女(足跡・生きる歩み)と(隠・こっそり)即ち「こっそり歩く」と書いてある。何故愛するのに、こっそり歩かなければならないのか。愛する男女が手を取り合って歩くのは、すばらしい生き様・生活(体の働きと命の働き・味わい)だと、素直に頂けるのに、体的情的な交わりになると、見ておれない。何故?

の女子生徒の眩きです。聖堂で司祭の愛についての話を聞き終えて、外に出てきたときに友だちと並んで「神様は愛だなんて、厭らしいわね」と吐き出すように話したのでした。たまたま、その生徒の側を通っていた私はビックリしました。が、すぐ思い直しました。生徒たちは宗教の時間に、きつと情操教育をしつかり受けているに違いない。自分の愛という言葉への受け止め方に変化、成長があつて、今も続いていると自覚する恵みを頂いたと素直に納得しました。

「草牟田のカトリック墓地」数十年ぶりにその名を聞いた。消えそうになった記憶を手繰ってみると、時折大人たちが清掃作業に汗を流していた場所に辿り着

ぶらり散策

草牟田墓地

肉欲を原動力とする情的愛。愛の心を欲の世界から尽くし尽くし捧げて昇華される精神的愛。そして与え捧げ尽くす魂の世界に目覚める霊的愛。聖者ザビエルが魂の救いを求めて鹿児島に上陸したのは、命そのものである神が先に愛したと言われる神聖の愛に駆り立てられてのことではなかったかと、臆下丹田に響き合う愛なのです。魂に目覚めた人にとって「こっそり歩



草牟田のカトリック墓地

く」ことよりも^①が^②に^③に^④に^⑤に^⑥に^⑦に^⑧に^⑨に^⑩に^⑪に^⑫に^⑬に^⑭に^⑮に^⑯に^⑰に^⑱に^⑲に^⑳に^㉑に^㉒に^㉓に^㉔に^㉕に^㉖に^㉗に^㉘に^㉙に^㉚に^㉛に^㉜に^㉝に^㉞に^㉟に^㊱に^㊲に^㊳に^㊴に^㊵に^㊶に^㊷に^㊸に^㊹に^㊺に^㊻に^㊼に^㊽に^㊾に^㊿に[㏀]に[㏁]に[㏂]に[㏃]に[㏄]に[㏅]に[㏆]に[㏇]に[㏈]に[㏉]に[㏊]に[㏋]に[㏌]に[㏍]に[㏎]に[㏏]に[㏐]に[㏑]に[㏒]に[㏓]に[㏔]に[㏕]に[㏖]に[㏗]に[㏘]に[㏙]に[㏚]に[㏛]に[㏜]に[㏝]に[㏞]に[㏟]に[㏠]に[㏡]に[㏢]に[㏣]に[㏤]に[㏥]に[㏦]に[㏧]に[㏨]に[㏩]に[㏪]に[㏫]に[㏬]に[㏭]に[㏮]に[㏯]に[㏰]に[㏱]に[㏲]に[㏳]に[㏴]に[㏵]に[㏶]に[㏷]に[㏸]に[㏹]に[㏺]に[㏻]に[㏼]に[㏽]に[㏾]に[㏿]に^㐀に^㐁に^㐂に^㐃に^㐄に^㐅に^㐆に^㐇に^㐈に^㐉に^㐊に^㐋に^㐌に^㐍に^㐎に^㐏に^㐐に^㐑に^㐒に^㐓に^㐔に^㐕に^㐖に^㐗に^㐘に^㐙に^㐚に^㐛に^㐜に^㐝に^㐞に^㐟に^㐠に^㐡に^㐢に^㐣に^㐤に^㐥に^㐦に^㐧に^㐨に^㐩に^㐪に^㐫に^㐬に^㐭に^㐮に^㐯に^㐰に^㐱に^㐲に^㐳に^㐴に^㐵に^㐶に^㐷に^㐸に^㐹に^㐺に^㐻に^㐼に^㐽に^㐾に^㐿に^㑀に^㑁に^㑂に^㑃に^㑄に^㑅に^㑆に^㑇に^㑈に^㑉に^㑊に^㑋に^㑌に^㑍に^㑎に^㑏に^㑐に^㑑に^㑒に^㑓に^㑔に^㑕に^㑖に^㑗に^㑘に^㑙に^㑚に^㑛に^㑜に^㑝に^㑞に^㑟に^㑠に^㑡に^㑢に^㑣に^㑤に^㑥に^㑦に^㑧に^㑨に^㑩に^㑪に^㑫に^㑬に^㑭に^㑮に^㑯に^㑰に^㑱に^㑲に^㑳に^㑴に^㑵に^㑶に^㑷に^㑸に^㑹に^㑺に^㑻に^㑼に^㑽に^㑾に^㑿に^㒀に^㒁に^㒂に^㒃に^㒄に^㒅に^㒆に^㒇に^㒈に^㒉に^㒊に^㒋に^㒌に^㒍に^㒎に^㒏に^㒐に^㒑に^㒒に^㒓に^㒔に^㒕に^㒖に^㒗に^㒘に^㒙に^㒚に^㒛に^㒜に^㒝に^㒞に^㒟に^㒠に^㒡に^㒢に^㒣に^㒤に^㒥に^㒦に^㒧に^㒨に^㒩に^㒪に^㒫に^㒬に^㒭に^㒮に^㒯に^㒰に^㒱に^㒲に^㒳に^㒴に^㒵に^㒶に^㒷に^㒸に^㒹に^㒺に^㒻に^㒼に^㒽に^㒾に^㒿に^㓀に^㓁に^㓂に^㓃に^㓄に^㓅に^㓆に^㓇に^㓈に^㓉に^㓊に^㓋に^㓌に^㓍に^㓎に^㓏に^㓐に^㓑に^㓒に^㓓に^㓔に^㓕に^㓖に^㓗に^㓘に^㓙に^㓚に^㓛に^㓜に^㓝に^㓞に^㓟に^㓠に^㓡に^㓢に^㓣に^㓤に^㓥に^㓦に^㓧に^㓨に^㓩に^㓪に^㓫に^㓬に^㓭に^㓮に^㓯に^㓰に^㓱に^㓲に^㓳に^㓴に^㓵に^㓶に^㓷に^㓸に^㓹に^㓺に^㓻に^㓼に^㓽に^㓾に^㓿に^㔀に^㔁に^㔂に^㔃に^㔄に^㔅に^㔆に^㔇に^㔈に^㔉に^㔊に^㔋に^㔌に^㔍に^㔎に^㔏に^㔐に^㔑に^㔒に^㔓に^㔔に^㔕に^㔖に^㔗に^㔘に^㔙に^㔚に^㔛に^㔜に^㔝に^㔞に^㔟に^㔠に^㔡に^㔢に^㔣に^㔤に^㔥に^㔦に^㔧に^㔨に^㔩に^㔪に^㔫に^㔬に^㔭に^㔮に^㔯に^㔰に^㔱に^㔲に^㔳に^㔴に^㔵に^㔶に^㔷に^㔸に^㔹に^㔺に^㔻に^㔼に^㔽に^㔾に^㔿に^㕀に^㕁に^㕂に^㕃に^㕄に^㕅に^㕆に^㕇に^㕈に^㕉に^㕊に^㕋に^㕌に^㕍に^㕎に^㕏に^㕐に^㕑に^㕒に^㕓に^㕔に^㕕に^㕖に^㕗に^㕘に^㕙に^㕚に^㕛に^㕜に^㕝に^㕞に^㕟に^㕠に^㕡に^㕢に^㕣に^㕤に^㕥に^㕦に^㕧に^㕨に^㕩に^㕪に^㕫に^㕬に^㕭に^㕮に^㕯に^㕰に^㕱に^㕲に^㕳に^㕴に^㕵に^㕶に^㕷に^㕸に^㕹に^㕺に^㕻に^㕼に^㕽に^㕾に^㕿に^㖀に^㖁に^㖂に^㖃に^㖄に^㖅に^㖆に^㖇に^㖈に^㖉に^㖊に^㖋に^㖌に^㖍に^㖎に^㖏に^㖐に^㖑に^㖒に^㖓に^㖔に^㖕に^㖖に^㖗に^㖘に^㖙に^㖚に^㖛に^㖜に^㖝に^㖞に^㖟に^㖠に^㖡に^㖢に^㖣に^㖤に^㖥に^㖦に^㖧に^㖨に^㖩に^㖪に^㖫に^㖬に^㖭に^㖮に^㖯に^㖰に^㖱に^㖲に^㖳に^㖴に^㖵に^㖶に^㖷に^㖸に^㖹に^㖺に^㖻に^㖼に^㖽に^㖾に^㖿に^㗀に^㗁に^㗂に^㗃に^㗄に^㗅に^㗆に^㗇に^㗈に^㗉に^㗊に^㗋に^㗌に^㗍に^㗎に^㗏に^㗐に^㗑に^㗒に^㗓に^㗔に^㗕に^㗖に^㗗に^㗘に^㗙に^㗚に^㗛に^㗜に^㗝に^㗞に^㗟に^㗠に^㗡に^㗢に^㗣に^㗤に^㗥に^㗦に^㗧に^㗨に^㗩に^㗪に^㗫に^㗬に^㗭に^㗮に^㗯に^㗰に^㗱に^㗲に^㗳に^㗴に^㗵に^㗶に^㗷に^㗸に^㗹に^㗺に^㗻に^㗼に^㗽に^㗾に^㗿に^㘀に^㘁に^㘂に^㘃に^㘄に^㘅に^㘆に^㘇に^㘈に^㘉に^㘊に^㘋に^㘌に^㘍に^㘎に^㘏に^㘐に^㘑に^㘒に^㘓に^㘔に^㘕に^㘖に^㘗に^㘘に^㘙に^㘚に^㘛に^㘜に^㘝に^㘞に^㘟に^㘠に^㘡に^㘢に^㘣に^㘤に^㘥に^㘦に^㘧に^㘨に^㘩に^㘪に^㘫に^㘬に^㘭に^㘮に^㘯に^㘰に^㘱に^㘲に^㘳に^㘴に^㘵に^㘶に^㘷に^㘸に^㘹に^㘺に^㘻に^㘼に^㘽に^㘾に^㘿に^㙀に^㙁に^㙂に^㙃に^㙄に^㙅に^㙆に^㙇に^㙈に^㙉に^㙊に^㙋に^㙌に^㙍に^㙎に^㙏に^㙐に^㙑に^㙒に^㙓に^㙔に^㙕に^㙖に^㙗に^㙘に^㙙に^㙚に^㙛に^㙜に^㙝に^㙞に^㙟に^㙠に^㙡に^㙢に^㙣に^㙤に^㙥に^㙦に^㙧に^㙨に^㙩に^㙪に^㙫に^㙬に^㙭に^㙮に^㙯に^㙰に^㙱に^㙲に^㙳に^㙴に^㙵に^㙶に^㙷に^㙸に^㙹に^㙺に^㙻に^㙼に^㙽に^㙾に^㙿に^㚀に^㚁に^㚂に^㚃に^㚄に^㚅に^㚆に^㚇に^㚈に^㚉に^㚊に^㚋に^㚌に^㚍に^㚎に^㚏に^㚐に^㚑に^㚒に^㚓に^㚔に^㚕に^㚖に^㚗に^㚘に^㚙に^㚚に^㚛に^㚜に^㚝に^㚞に^㚟に^㚠に^㚡に^㚢に^㚣に^㚤に^㚥に^㚦に^㚧に^㚨に^㚩に^㚪に^㚫に^㚬に^㚭に^㚮に^㚯に^㚰に^㚱に^㚲に^㚳に^㚴に^㚵に^㚶に^㚷に^㚸に^㚹に^㚺に^㚻に^㚼に^㚽に^㚾に^㚿に^㜀に^㜁に^㜂に^㜃に^㜄に^㜅に^㜆に^㜇に^㜈に^㜉に^㜊に^㜋に^㜌に^㜍に^㜎に^㜏に^㜐に^㜑に^㜒に^㜓に^㜔に^㜕に^㜖に^㜗に^㜘に^㜙に^㜚に^㜛に^㜜に^㜝に^㜞に^㜟に^㜠に^㜡に^㜢に^㜣に^㜤に^㜥に^㜦に^㜧に^㜨に^㜩に^㜪に^㜫に^㜬に^㜭に^㜮に^㜯に^㜰に^㜱に^㜲に^㜳に^㜴に^㜵に^㜶に^㜷に^㜸に^㜹に^㜺に^㜻に^㜼に^㜽に^㜾に^㜿に^㝀に^㝁に^㝂に^㝃に^㝄に^㝅に^㝆に^㝇に^㝈に^㝉に^㝊に^㝋に^㝌に^㝍に^㝎に^㝏に^㝐に^㝑に^㝒に^㝓に^㝔に^㝕に^㝖に^㝗に^㝘に^㝙に^㝚に^㝛に^㝜に^㝝に^㝞に^㝟に^㝠に^㝡に^㝢に^㝣に^㝤に^㝥に^㝦に^㝧に^㝨に^㝩に^㝪に^㝫に^㝬に^㝭に^㝮に^㝯に^㝰に^㝱に^㝲に^㝳に^㝴に^㝵に^㝶に^㝷に^㝸に^㝹に^㝺に^㝻に^㝼に^㝽に^㝾に^㝿に^㞀に^㞁に^㞂に^㞃に^㞄に^㞅に^㞆に^㞇に^㞈に^㞉に^㞊に^㞋に^㞌に^㞍に^㞎に^㞏に^㞐に^㞑に^㞒に^㞓に^㞔に^㞕に^㞖に^㞗に^㞘に^㞙に^㞚に^㞛に^㞜に^㞝に^㞞に^㞟に^㞠に^㞡に^㞢に^㞣に^㞤に^㞥に^㞦に^㞧に^㞨に^㞩に^㞪に^㞫に^㞬に^㞭に^㞮に^㞯に^㞰に^㞱に^㞲に^㞳に^㞴に^㞵に^㞶に^㞷に^㞸に^㞹に^㞺に^㞻に^㞼に^㞽に^㞾に^㞿に^㟀に^㟁に^㟂に^㟃に^㟄に^㟅に^㟆に^㟇に^㟈に^㟉に^㟊に^㟋に^㟌に^㟍に^㟎に^㟏に^㟐に^㟑に^㟒に^㟓に^㟔に^㟕に^㟖に^㟗に^㟘に^㟙に^㟚に^㟛に^㟜に^㟝に^㟞に^㟟に^㟠に^㟡に^㟢に^㟣に^㟤に^㟥に^㟦に^㟧に^㟨に^㟩に^㟪に^㟫に^㟬に^㟭に^㟮に^㟯に^㟰に^㟱に^㟲に^㟳に^㟴に^㟵に^㟶に^㟷に^㟸に^㟹に^㟺に^㟻に^㟼に^㟽に^㟾に^㟿に^㠀に^㠁に^㠂に^㠃に^㠄に^㠅に^㠆に^㠇に^㠈に^㠉に^㠊に^㠋に^㠌に^㠍に^㠎に^㠏に^㠐に^㠑に^㠒に^㠓に^㠔に^㠕に^㠖に^㠗に^㠘に^㠙に^㠚に^㠛に^㠜に^㠝に^㠞に^㠟に^㠠に^㠡に^㠢に^㠣に^㠤に^㠥に^㠦に^㠧に^㠨に^㠩に